

講演

「孤塁 双葉郡消防士たちの3・11」から考える原発避難について

第26回 法律援助を広げる 市民のつどい

市民の裁判を受ける権利を守るために

2022年 2月26日(土) 13:30
(令和4年) 15:00

写真提供:双葉消防本部

2011年3月12日。東京電力福島第二原子力発電所の1号機爆発の映像は、誰もが驚きをもつて見守っていたのではないだろうか。その画面の向こう、爆発現場の数キロ地点で、住民避難誘導、避難広報、そして救助救急搬送活動を必死に行なっていた消防士たちがいました。

その双葉消防本部のみなさんに初めて会ったのは、2018年10月のこと。そこから1年ほど通い、当時活動をしていた消防士66名から話を聞き、さまざまなことを教えてもらいました。その想像を絶する過酷な活動は、原発事故が「なかったこと」のように語られる現在こそ、知らなければならぬと改めて感じています。

原発事故は終わっていない。そして、その事故をどう捉え、どう教訓を得るのかは、この時代に問われていると思います。どうか、ともに考えてくださることを願っています。

■人権救済基金の説明及び事例報告

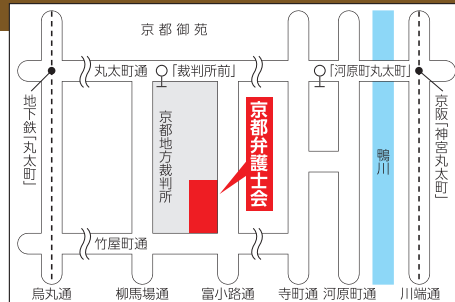
よしだ ちあ
吉田 千亜

1977年生まれ。フリーライター。福島第一原発事故後、被害者・避難者の取材、サポートを続ける。著書に『ルポ母子避難』(岩波新書)、『その後の福島——原発事故後を生きる人々』(人文書院)、『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』(岩波書店)、『共著『原発避難白書』(人文書院)など。『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』では、日隅一雄・情報流通促進賞2020大賞、第42回講社本田靖春ノンフィクション賞、第63回日本ジャーナリスト会議(JCJ賞)、第一回「脱原発社会をめざす文学者の会」文学大賞を受賞。

■会場

京都弁護士会館
地階大ホール 先着順・入場無料

人数制限あり。また、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、会場での開催を取りやめ、完全オンライン開催とする可能性があります。
人数制限の詳細と、会場開催の取りやめの判断は、
前日までに弁護士会のホームページ
(<https://www.kyotoben.or.jp/>)
にてお知らせします。



〒604-0971 京都市中京区富小路通丸太町下ル
①地下鉄「丸太町」駅から徒歩7分 ③バス停「裁判所前」から徒歩1分
②京阪「神宮丸太町」駅から徒歩12分 ④バス停「河原町丸太町」から徒歩8分
駐車場・駐輪場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい。



Zoom配信による同時開催

先着順

Zoom アプリの
事前ダウンロード
推奨

●第26回つどい22.2.26ウェビナーURL
<https://us02web.zoom.us/j/83283052055>



主催/京都弁護士会 後援/京都府・京都市・京都地方務局・京都府社会福祉協議会・京都市社会福祉協議会・京都新聞・KBS京都・日本司法支援センター京都地方事務所



京都弁護士会
KYOTO BAR ASSOCIATION

〒604-0971 京都市中京区富小路通丸太町下ル
TEL.075-231-2378

詳しくはホームページをご覧ください
京都弁護士会 検索

